

困難だからこそ やるべきことがある



森トラスト社長 **伊達美和子**
だて みわこ

2011年3月11日、東日本大震災。「困難な事態に直面した時、何をすべきか」「社会に対して自分は何ができるか」それを真剣に考え、行動するきっかけとなった出来事だった。

震災の前年、当社は「仙台トラストシティ」をオープンさせていた。私は開発責任者であり、「ウェステインホテル仙台」も統括していたことから、震災対応の陣頭指揮を執った。

仙台とウェブ会議ができるシステムを導入しており、現地状況をリアルタイムで把握できた。人員は無事、建物被害も軽微。72時間の非常用発電が稼働し、市内で唯一明かりがとまったトラストシティに続々と人々が集まっていた。受け入れを決め、深夜まで対応に追われたが、仙台市内の状況が克明にわかるにつれ、メディアの報道より仙台市内の都市機能の復旧は早いと感じた。

翌週、来客にお話ししたが、全く信じない。東北全体が壊滅的な被害を受けていると信じ、日本中が鎮魂と自粛ムードに重く沈んでいた。仙台に行き、私が得ていた情報どおりであれば、仙台から一歩前に進むことを進言しようと思った。地元が「仙台は大丈夫だ、8月の七夕まつりも開催する」と宣言すれば、地元の人々はもちろん、日本中が力づけられるし、何よりも東北復興の後押しになるはずだ。同年4月初め、山形空港から車で仙台に入

り、当時の市長や経済団体のトップにお会いした。その日の夜中、最大の余震となったが、お二人とも同じ想いだっただけで、翌朝の新聞に「仙台七夕まつり、予定通り実施へ」という文字が大きく躍った。

次に、需要のあるなしはわからなかったが、地元を元気づけたい一心で、4月末にはホテルを再開。「お客様から、ありがとうという言葉と笑顔をいただきました」という報告が入り、心が温かくなった。

そしてもう一つ、仙台からの帰路、使命感を持ってやろうと思ったことがあった。なるべく早く国際会議を仙台に誘致し、世界の人々に元気な仙台を見せようことだ。

「観光分野のダボス会議」と称されるWTTTC^①の誘致が震災で止まっていた。誘致チームに加えてもらい、大会が開催されていたラスベガスに飛んだ。「日本全土が壊滅状態だ」と信じていた人々に、仙台や東京の写真を見せられた。2012年の誘致が決定。国際会議は仙台と東京で無事開催された。世界のツーリズム関連企業のトップに、仙台や東京の現状を見ていただいたことは大きな成果だった。

今、世界は新たな脅威に直面しているが、震災から学んだ言葉が私を鼓舞する。

「困難だからこそ、やるべきことがある」
「先が見えないからこそ、一歩を踏み出せ」
そして、「心の眼で見えないものを観よ」と。

① WTTTC (World Tourism and Travel Council) : 世界旅行ツーリズム協議会。
世界の旅行・観光業にかかわる民間部門を代表する組織